ミニ・ディスクロージャー誌

平成19年3月期 営業のご報告





株式会社紀陽ホールディングス 株式会社 紀陽銀行

目 次

- 1 ごあいさつ
- 2 中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」について
- 4 決算ハイライト
- 10 財務諸表
- 13 ネットワーク
- 14 地域の皆さまとともに
- 地域・社会貢献活動への取り組み
- 株式情報

株式会社 紀陽ホールディングス

立 日 平成18年2月1日

所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地

資 本 金 583億5,000万円

事業の内容 銀行等子会社の経営管理、ならびにそれらに附帯する業務

上場証券取引所 東証·大証一部

株式会社 紀陽銀行

立 日 明治28年5月2日

在 地 和歌山市本町1丁目35番地

資 本 金 800億9,600万円

数 102店(県内67ヵ店、県外32ヵ店、その他3ヵ店)

従 業 員 数 1.993名(出向者を除く)

※資本金、店舗数は平成19年5月31日現在。 ※従業員数は平成19年3月31日現在。

ごあいさつ

皆さまには、平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立て いただきまして、誠にありがとうございます。

この度「平成19年3月期 ミニ・ディスクロージャー誌」を作成いたしました。平成19年3月期決算の概要や中期経営計画の進捗状況、また最近の取り組みなどをまとめておりますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

さて、昨年度は、日本経済が回復基調を持続するなかで、日本銀行が平成18年7月と平成19年2月に2度の利上げを実施するなど、私ども金融機関にとって経営環境が大きく変化した1年でありました。

こうしたなかで、平成18年10月に紀陽銀行と和歌山銀行の合併により新たな紀陽銀行が誕生し、同時に第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」への取り組みを開始いたしました。

合併後の紀陽銀行では、皆さまから確固たるご信頼を賜るため、盤石な営業基盤の構築と高い収益力の確保に努めるとともに、お客さまとの「Face To Face」のお付き合いを大切にし、お客さまによりご満足いただけるような取り組みを進めております。

店舗面においては、個人のお客さまの資産運用ニーズにお応えするために、個人取引に特化した店舗として、西脇支店、泉大津支店を出店いたしました。さらに、現在大阪市内への貸出業務特化型店舗出店に向けた準備を進めております。平成21年3月までの中期経営計画期間中に、紀陽銀行の主要営業エリアである和歌山、大阪両府県に地域特性に応じた機能特化型店舗を順次出店する予定であります。

また、営業拠点の増強とともに、地域の企業や個人事業主のお客さまへの貸出にも 積極的に取り組み、「攻めの経営」への転換のなかで、業容の拡大と収益力の強化を 進める所存であります。

地域金融機関の原点は「地域とともに」ということであり、地域の発展なくして私どもの発展もあり得ません。役職員一同、「お客さまの満足を第一とする心 (ハート)を大切にし、お客さまのために知恵 (ブレイン)を絞り、行動 (アクション) する」ことを肝に銘じ、地域の皆さまへの様々なサービスのご提供を通じ、地域経済に貢献することをめざしてまいります。

皆さまには、引き続き変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長 片山博匠

中期経営計画 「ハート&ブレイン・アクションプラン」について

紀陽銀行では、平成18年10月の和歌山銀行との合併を機に、第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」 (計画期間:平成18年10月~平成21年3月)に取り組んでおります。

■中期経営計画の概要

基本姿勢

経営基盤の強化

統合シナジー効果を早期に実現することで、より磐石な営業基盤の構築と高い収益力を確保します。

地域経済への貢献

地域のお客さまとのリレーション シップを強化し、地域金融の一層の 円滑化に資するとともに、企業市民 として地域経済の発展に貢献する 銀行であり続けます。

多様かつ高度な総合金融 サービスのご提供

多様化するお客さまのニーズに 対して、お客さまの声を受け止め、 お客さまの満足を第一に考え、高度 でかつきめ細やかな総合的金融 サービスをご提供してまいります。

目標とする銀行像

『お客さまから選ばれ続ける銀行』

お客さまの満足を第一とする**心(ハート)**を大切にし、 お客さまの良き相談相手として**知恵(ブレイン)**を絞り、 汗をかき**行動する(アクション)**銀行を目指します。

金融機能強化法に基づく公的資金の活用

中期経営計画の基本姿勢に基づき、地域における積極的なリスクテイクと資産の積み上げを下支えするための自己資本充実策として、平成18年11月に公的資金315億円を受け入れました。

金融機能強化法とは

経営が健全とみなされる金融機関にも公的資金を注入する仕組み。地域金融機関の再編を促進することを目的に 平成16年6月に制定されました。合併や統合など抜本的な組織再編をともなう場合などに適用されます。

目標とする経営指標への取り組み状況

紀陽銀行単体 単位:億円

平成18年3月 目標項目 平成18年3月 実績*			平成18年3月期 実績※
規模	預金残高(譲渡性預金含む)(末残)		29,580
	貸出金残高(末残)		20,494
		(内 ローン残高)	
	預かり資産残高(末残)		2,707
		(内 投資信託残高)	1,322
収益性	コア業務純益		197
	コア業務純益ROA(コア業務純益/総資産)		0.60%
効率性	OHR(経費/業務粗利益)		64.93%
健全性	不良債	不良債権比率	

×.	- 47	合質	ベー	- 7

平成19年3月期		
実績	計画	計画対比
30,935	30,000	935
21,114	20,600	514
6,813	6,800	13
3,448	3,440	8
1,778	1,654	124
183	172	11
0.56%	0.53%	0.03
67.41%	69.31%	▲ 1.90
6.19%	6.51%	▲0.32

平成21年3月期 計画
3兆3,000億円以上
2兆2,000億円以上
7,800億円以上
5,400億円以上
2,600億円以上
230億円以上
0.68%
60%未満
4%台

紀陽ホールディングス連結 Hotifen

	目標項目	平成18年3月期 実績
収益性	当期純利益	32
健全性	自己資本比率	9.52%
	Tier I 比率	6.30%
	繰延税金資産対Tier I 比率	36.08%

平成19年3月期		
実績	計画	計画対比
81	50	31
11.58%	11.07%	0.51
8.51%	8.09%	0.42
22.00%	28.40%	▲ 6.40

	平成21年3月期 計画
	100億円以上
)	11%以上
	8%以上
	10%台

コア業務純益とは

預金、貸出金、有価証券などの利息収支である「資金利益」、各種手数料など の収支である「役務取引等利益」、外国為替、債券の売買損益などの収支である 「その他業務利益」を合計した「業務粗利益」から「経費」と「一般貸倒引当金 繰入額」を差し引いたものが「業務純益」です。さらに、「業務純益」から一般 貸倒引当金繰入額、債券関係損益の影響を控除したものが「コア業務純益」と なります。銀行の本来業務での収益を表す指標です。

OHR೬は

業務粗利益に占める経費の割合を表し、効率性を示す指標のひとつです。 平成19年3月期は合併関連費用の発生にともない上昇していますが、計画の 範囲内に収まっております。

自己資本比率・Tier I 比率とは

自己資本比率は、信用リスク・アセット(総資産のうち、貸倒の可能性がある 資産)などに対する資本金などの自己資本の割合を示します。

Tier I は、資本金や利益剰余金など自己資本の中核を占めるもので、リスク アセットに対する割合は、健全性を示す指標のひとつです。

繰延税金資産とは

企業会計上の利益と課税所得が一致しない場合に生じるもので、企業会計上、 将来負担すべき税負担を当期に前払いしたと考え資産計上するものです。

業務粗利益 □=行合算

平成19年3月期の業務粗利益は前期比36億円減少し、553億円となりました。前期(平成18年3月期)に投資信託解約配当金受入など特殊要因があったことなどによりますが、平成18年10月の紀陽銀行と旧和歌山銀行との合併以降は、預金、貸出金ともに増加基調に転じ、貸出金利息や有価証券利息配当金を順調に計上しております。

また、投資信託などの販売手数料も引き続き増加しております。

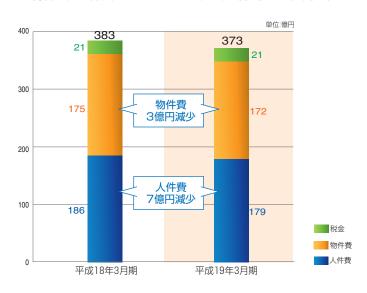
			単位.1息円
	平成18年3月期	平成19年3月期	増減
資金利益	531	507	△ 24
役務取引等利益	57	64	7
その他業務利益	1	△ 17	△ 18
業務粗利益	589	553	△ 36

_____業務粗利益とは

預金・貸出金業務や有価証券運用などによる 利息収支である「資金利益」、投資信託販売手 数料など各種手数料の収支である「役務取引 等利益」、債券や外国為替の売買損益などの 収支である「その他業務利益」の合計

経費 二行合算

物件費、人件費をはじめとする経費が前期比10億円減少いたしました。





■コア業務純益●=行合算●

合算ベースのコア業務純益は、業務粗利益が特殊要因などにより減少したこともあり、前期比14億円減少し、183億円となりました。

単位:億円 平成18年3月期 平成19年3月期 増減 (A) 業務粗利益 △ 36 589 553 B)うち債券関係損益 △ 2 △ 11 (C) 経費 383 373 △ 10 一般貸倒引当金繰入額 △ 9 △ 14 △5 E 業務純益(A)—(C)—(D) 216 195 △ 21 (F) コア業務純益((E) – (B) + (D) 197 183 △ 14

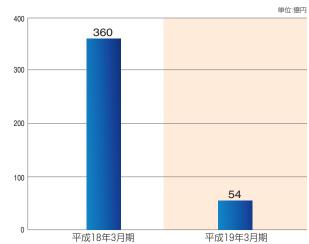
■与信コスト●二行合算

前期に、合併後の財務リスクを一層するためより厳格な査定を実施し、十分な引当処理を行っており、一般貸倒引当金 繰入額と不良債権処理額をあわせた平成19年3月期の与信費用は、前期比279億円減少し95億円となりました。

さらに、地元経済の回復基調が現れてきたことから、償却債権取立益が前期比26億円増加し、ネット与信コストは前期比306億円減少し、54億円となりました。

ネット与信コスト=一般貸倒引当金繰入額+不良債権処理額-償却債権取立益

	平成18年3月期	平成19年3月期	増減
一般貸倒引当金繰入額	△ 9	△ 14	△ 5
不良債権処理額	384	110	△ 274
償却債権取立益	15	41	26
ネット与信コスト	360	54	△ 306



当期純利益(二行合算)

不良債権処理額が前期比274億円減少したことなどにより、当期純利益は前期比156億円増加し、84億円となりました。

配当方針

平成19年3月期につきましては、普通株式1株につき2円50銭の配当を行いました。 なお、平成20年3月期につきましては、収益力の強化と業務の効率化を進め、第1次中期経営計画を着実に遂行することにより、普通株式1株につき3円への増配を予定しております。

■業績予想

紀陽銀行においては、営業人員および営業拠点の増強による営業部門の強化を進めております。また、景気回復の流れのなかで企業の資金需要の増加が期待されるとともに、ネットの与信費用も一定の範囲内に収まるものと見込んでおります。 他金融機関との競合や資金調達コストの上昇も予想されますが、依然高水準の利益計上が可能であると考えております。

紀陽ホールディングス連結

単位:億円

	平成20年3月期 中間期	平成20年3月期
経常収益	415	842
経常利益	52	101
当期純利益	47	82

紀陽銀行単体

単位:億円

	平成20年3月期 中間期	平成20年3月期
経常収益	370	753
コア業務純益	100	198
業務純益	104	207
経常利益	55	109
当期純利益	47	95

不良債権比率	5.6%程度	5.3%程度
--------	--------	--------

■預金等および貸出金 = 行合算

平成18年10月以前は、旧和歌山銀行において大規模な店舗統廃合を控えていたこともあり、預金等および貸出金の残高が減少しておりましたが、合併後は増加に転じました。平成18年9月末からの半年間で、預金等は1,694億円、貸出金は987億円増加いたしました。

■預金等残高推移

当行の主要営業基盤である和歌山県および大阪府において、 合併以降お客さまとの営業接点の強化に努めた結果、両府県を 中心に預金等の残高が増加いたしました。



※預金等には譲渡性預金を含みます。

■ その他のローン

住宅ローン

量貸出金残高推移

貸出金は、合併以降増加に転じ、前期比620億円増加いたしました。

和歌山、大阪の両府県で住宅ローンの販売にも注力した結果、 消費者ローンの残高は前期比132億円増加し、6,813億円となりました。





■自己資本比率

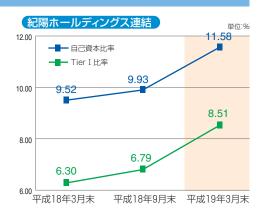
紀陽ホールディングス連結の自己資本比率 (第二基準) は、公的資金の受入や当期純利益の計上などにより自己資本額が前期比400億円 (Tier I は397億円) 増加したことから、前期比2.06%上昇し、11.58% となりました。

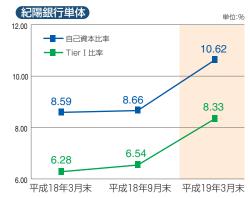
また、紀陽銀行単体の自己資本比率(国内基準)は、前期比2.03% 上昇し、10.62%となりました。

	自己資本		自己資本額	繰延税金資産		
	比率		Tier I	TierII		Tier I 対比
紀陽HD	11.58%	1,797億円	1,321億円	476億円	290億円	22.0%
(連結)	(2.06%)	(400億円)	(397億円)	(△2億円)	(△42億円)	(△14.1%)
紀陽銀行	10.62%	1,640億円	1,286億円	479億円	291億円	22.6%
(単体)	(2.03%)	(547億円)	(486億円)	(62億円)	(△14億円)	(△15.5%)

※()内は平成18年3月末対比

繰延税金資産については、紀陽ホールディングス連結で 前期比42億円、紀陽銀行単体で前期比14億円減少しました。 Tier I に対する繰延税金資産の割合も着実に低下して います。





紀陽ホールディングス連結

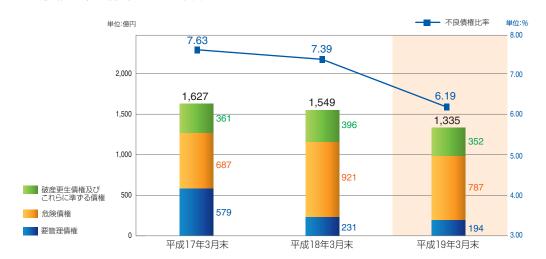


決算ハイライト~不良債権~

■不良債権(金融再生法開示債権) = 行合算

平成21年3月期までに不良債権比率を4%台にすることを目標に、不良債権の最終処理、事業再生支援および経営改善支援への取り組みによる債務者区分のランクアップなどによる不良債権額の削減に努めております。

この結果、平成19年3月末の不良債権残高は前期末比213億円減少し、1,335億円となりました。 また、不良債権比率は前期比1,20%低下し、6,19%となりました。



■不良債権の保全状況

不良債権総額1.335億円のうち91.5%は担保や引当金などで保全されております。

単位:億円							
	/丰+矢 尔 瓦(※1)	保全額			保全率		
	債権額^(※1)	木土鉙	担保·保証等	引当額			
破産更生債権及びこれらに準ずる債権(**2)	352	352	315	37	100.0%		
危険債権 ^(*3)	787	746	525	220	94.7%		
要管理債権(*4)	194	124	70	53	63.7%		
合計	1,335	1,223	912	310	91.5%		

- (※1) 貸出金、支払承諾見返、外国為替、銀行保証付私募債、貸付有価証券、仮払金等の合計
- (※2) 破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準する債権
- (※3) 債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権
- (※4) 3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

■紀陽ホールディングス(連結)

第2期末 連結貸借対照表 (平成19年3月31日現在)

弗∠别不 建枯貝	间列炽衣
科目	金額
(資産の部)	
現金預け金	60,225
コールローン及び買入手形	95,525
債券貸借取引支払保証金	144,066
買入金銭債権	7,654
商品有価証券	12,913
有価証券	809,334
貸出金	2,103,444
外国為替	2,225
その他資産	21,809
有形固定資産	40,069
無形固定資産	17,552
繰延税金資産	29,058
支払承諾見返	28,297
貸倒引当金	△45,900
	1

次10年0/301日96日/	単位:百万円
科目	金額
(負債の部)	
預金	2,988,692
譲渡性預金	86,828
債券貸借取引受入担保金	4,328
借用金	22,495
外国為替	19
社債	16,000
その他負債	21,852
退職給付引当金	3,089
繰延税金負債	29
支払承諾	28,297
負債の部合計	3,171,633
(純資産の部)	
資本金	58,350
資本剰余金	77,128
利益剰余金	24,398
自己株式	\triangle 12,566
株主資本合計	147,309
その他有価証券評価差額金	5,545
繰延ヘッジ損益	△3
評価·換算差額等合計	5,542
少数株主持分	1,792
純資産の部合計	154,644
負債及び純資産の部合計	3,326,278

第2期 連結損益計算書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

		単位:百万円
科目	金	額
経常収益		80,683
資金運用収益	58,580	
(うち貸出金利息)	(44,718)	
(うち有価証券利息配当金)	(12,830)	
役務取引等収益	12,621	
その他業務収益	7,306	
その他経常収益	2,175	
経常費用		72,477
資金調達費用	7,283	,
(うち預金利息)	(3,402)	
役務取引等費用	4,054	
その他業務費用	7,984	
営業経費	39,794	
その他経常費用	13,360	
経常利益	- ,	8,206
特別利益		5,082
特別損失		1,570
税金等調整前当期純利益		11,718
法人税、住民税及び事業税		975
法人税等調整額		2,556
少数株主利益		6
当期純利益		8,180
(注) 引井会館は五丁四土港を切り換えてまこしてわり		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部合計

3,326,278

第2期 連結株主資本等変動計算書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

単位:百万円

							单位.日万円			
	株主資本 評価·換算差額等									
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価·換算 差額等合計	少数株主 持分	純資産 合計
平成18年3月31日残高	42,600	61,384	16,218	△12,526	107,677	3,078	_	3,078	1,412	112,168
連結会計年度中の変動額										
新株の発行	15,750	15,750			31,500					31,500
当期純利益			8,180		8,180					8,180
自己株式の取得				△39	△39					△39
自己株式の処分		△6		33	26					26
連結子会社等の持分変動等に伴う 自己株式の増減				△34	△34					△34
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						2,466	△3	2,463	379	2,843
連結会計年度中の変動額合計	15,750	15,743	8,180	△40	39,632	2,466	△3	2,463	379	42,475
平成19年3月31日残高	58,350	77,128	24,398	△12,566	147,309	5,545	△3	5,542	1,792	154,644

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■紀陽ホールディングス(連結)

第2期 連結キャッシュ・フロー計算書

或18年4月1日から平成19年3月31日まで) 料 月	単位
	金額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	44.74
税金等調整前当期純利益	11,71
減価償却費	4,97
減損損失	1,21
のれん償却額	1,67
負ののれん償却額	△183
持分法による投資損益(△)	△4;
貸倒引当金の増減(△)額	△8,88
退職給付引当金の増減(△)額	△2,16
資金運用収益	△58,58
資金調達費用	7,28
有価証券関係損益(△)	89
金銭の信託の運用損益(△)	3
為替差損益(△)	△5,44
固定資産処分損益(△)	△19
商品有価証券の純増(△)減	△11,58
貸出金の純増(△)減	△62,07
預金の純増減(△)	46,01
譲渡性預金の純増減(△)	83,82
預け金(現金同等物を除く)の純増(△)減	2,27
コールローン等の純増(△)減	34,45
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	△134.06
コールマネー等の純増減(△)	—104,000 △14
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	△69,90
外国為替(資産)の純増(△)減	1,04
外国為替(負債)の純増減(△)	
資金運用による収入	58,77
資金調達による支出	△6,07
その他	<u>△1,11</u> 1
小 計	△106,26
法人税等の支払額	<u>△52</u>
営業活動によるキャッシュ・フロー	△106,78
Ⅱ. 投資活動によるキャッシュ・フロー	۸ ۵۵۵ ۵۵۰
有価証券の取得による支出	△502,92
有価証券の売却による収入	380,230
有価証券の償還による収入	122,03
金銭の信託の減少による収入	3,46
有形固定資産の取得による支出	△1,24
有形固定資産の売却による収入	1,46
無形固定資産の取得による支出	△61
連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得による支出	△56
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,84
Ⅲ. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
劣後特約付借入金の返済による支出	△5,00
劣後特約付社債の発行による収入	5,00
劣後特約付社債の償還による支出	△2,00
株式の発行による収入	31,50
株式移転交付金の支払額	△1,51
少数株主への配当金の支払額	Δ.
自己株式の取得による支出	△3!
自己株式の売却による収入	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	27,96
V. 現金及び現金同等物に係る換算差額	21,00
V. 現金及び現金同等物の増減(△)額	△76.94
V. 現金及び現金同等物の期首残高	133,17
WI. 現金及び現金同等物の期末残高	56,22

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■役員一覧

(平成19年6月28日現在)

株式会社 紀陽ホールディングス

取締役社長(代表取締役)	片	Ш	博	臣
専務取締役	古	出	哲	彦
常務取締役	瀧	JII	千	秋
常務取締役	木	下	泰	明
取締役	阪	本	彰	央
取締役(社外取締役)	水	野	八	朗
監査役(常勤)	林			宏
監査役(常勤)	33	Ш		喬
監査役(非常勤·社外監査役)	松]]]	雅	典
監査役(非常勤·社外監査役)	増	尾		穰
監査役(非常勤·社外監査役)	大	1/7	勝	之

株式会社 紀陽銀行

取締役頭取(代表取締役)	片	Щ	博	臣
専務取締役	古	出	哲	彦
常務取締役	瀧	JII	千	秋
常務取締役	木	下	泰	明
常務取締役	雜	賀		均
取締役	米	坂		享
取締役	泉		清	映
取締役	松	出	靖	之
取締役	上	野	隆	司
取締役	森	JII	保	彦
監査役(常勤)	林			宏
監査役(常勤)	33	Щ		喬
監査役(非常勤·社外監査役)	松	JII	雅	典
監査役(非常勤·社外監査役)	増	尾		穣
監査役(非常勤·社外監査役)	大	1/	勝	之

■連結範囲および持分法の適用に関する事項

連結子会社は9社、持分法適用会社はO社であります。

·阪和信用保証株式会社 連結子会社·株式会社紀陽銀行 ・紀陽は望りステム株式会社 ・紀陽ピジネスファイナンス株式会社 ・株式会社に帰カードディーシー・・紀陽にピジネスサービス株式会社 ・紀陽リース・キャビタル株式会社 ・和歌山銀カード株式会社

・株式会社紀陽カード

従来持分法適用の関連会社であった紀陽情報システム株式会社は、当社が株式を追加取得したことにより、当連結会計年度 から連結しております。

前連結会計年度において連結される子会社であった株式会社紀陽銀行と株式会社和歌山銀行は、平成18年10月10日に 株式会社紀陽銀行を存続会社として合併いたしました。 また、前連結会計年度において連結される子会社であった和銀ビジネスサービス株式会社は、清算により除外しております。

■紀陽銀行(単体)■

第197期末 貸借対照表 (平成19年3月31日現在)

和10/701八 貝里	**************************************
科目	金 額
(資産の部)	
現金預け金	60,161
コールローン	95,525
債券貸借取引支払保証金	144,066
買入金銭債権	7,654
商品有価証券	12,913
有価証券	820,985
貸出金	2,111,460
外国為替	2,225
その他資産	13,556
有形固定資産	34,337
無形固定資産	1,363
繰延税金資産	29,123
支払承諾見返	28,259
貸倒引当金	△42,877

19年3月31日現在)	
	単位:百万円
科 目	金額
(負債の部)	
預金	2,995,603
譲渡性預金	97,928
債券貸借取引受入担保金	4,328
借用金	22,495
外国為替	19
社債	16,000
その他負債	14,270
退職給付引当金	3,067
再評価に係る繰延税金負債	282
支払承諾	28,259
負債の部合計	3,182,254
(純資産の部)	
資本金	80,096
資本剰余金	32,357
資本準備金	22,259
その他資本剰余金	10,097
利益剰余金	18,561
利益準備金	2,279
その他利益剰余金	16,281
繰越利益剰余金	16,281
株主資本合計	131,015
その他有価証券評価差額金	5,074
繰延ヘッジ損益	△3
土地再評価差額金	416
評価·換算差額等合計	5,487
純資産の部合計	136,502
負債及び純資産の部合計	3,318,756

第197期 損益計算書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

		単位:百万円
科 目	金	額
経常収益		68,703
資金運用収益	53,947	
(うち貸出金利息)	(40,622)	
(うち有価証券利息配当金)	(12,342)	
役務取引等収益	10,283	
その他業務収益	2,528	
その他経常収益	1,943	
経常費用		59,058
資金調達費用	7,051	·
(うち預金利息)	(3,215)	
役務取引等費用	3,955	
その他業務費用	4,269	
営業経費	33,203	
その他経常費用	10,578	
経常利益		9,644
特別利益		3,466
特別損失	! !	541
税引前当期純利益		12,569
法人税、住民税及び事業税		316
法人税等調整額		2,786
当期純利益		9,466

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部合計

第197期 株主資本等変動計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

単位:百万円

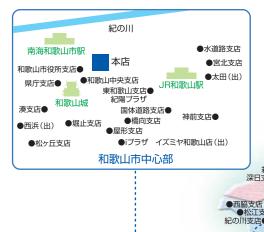
													半世.日八〇
	株主資本						評価·換算差額等						
		資本剰余金		利益剰余金				その他		土地		純資産	
	資本金	資本準備金	その他 資本	資本 剰余金		その他利益剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	有価証券評価差額金	繰延ヘッジ 損益	再評価差額金	評価·換算 差額等合計	合計
		华佣亚	剰余金	合計	準備金	繰越利益剰余金	合計		可叫注象亚		NE RM TIT		
平成18年3月31日残高	64,346	6,509	_	6,509	679	16,424	17,103	87,960	3,441	_	_	3,441	91,401
事業年度中の変動額													
新株の発行	15,750	15,750		15,750				31,500					31,500
剰余金の配当					1,600	△9,599	△7,999	△7,999					△7,999
当期純利益						9,466	9,466	9,466					9,466
合併による増加			10,097	10,097				10,097					10,097
土地再評価差額金の取崩						△9	△9	△9					△9
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)									1,632	△3	416	2,045	2,045
事業年度中の変動額合計	15,750	15,750	10,097	25,847	1,600	△142	1,457	43,055	1,632	△3	416	2,045	45,100
平成19年3月31日残高	80,096	22,259	10,097	32,357	2,279	16,281	18,561	131,015	5,074	△3	416	5,487	136,502

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

ネットワーク (平成19年5月31日現在)

■当行の営業エリア・店舗ネットワーク

紀陽銀行は、主要営業エリアである和歌山県、大阪府を 中心に102店舗を設置し、両府県にまたがる店舗ネット ワークを展開しております。





和歌浦支店● ●内原(出) 貴志川支店 海南支店●

海南駅前支店●

●由良支店

●御坊駅前支店 ●御坊支店

> ●印南(出) ●南部支店

●加茂郷支店

●海南東支店

●金屋支店 ●吉備支店 ●湯浅支店

●野上支店

●美里(出) ●清水支店

> ●田辺支店 ●田辺駅前支店 ●朝来支店

大阪支店●

大阪中央支店●

大阪中之島公会堂

●鴻池新田支店

	店舗数	店舗外ATM
和歌山県	67	114
大阪府	32	29
奈良県	2	1
東京都、三重県	1	1
合計	102	145

東京支店●



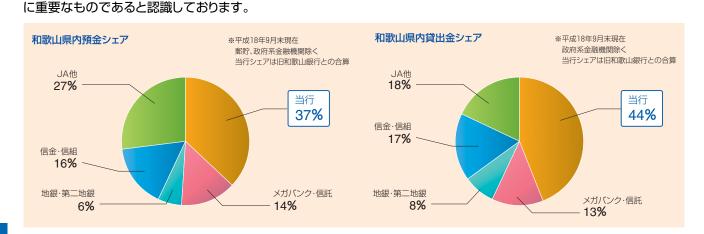
熊野古道

●本宮支店



■預金・貸出金の和歌山県内シェア

紀陽銀行は和歌山県下に67店舗、大阪府下に32店舗を有し、両府県を主要な営業基盤としています。 特に和歌山県では、預金、貸出金ともトップシェアをいただいており、地域のリーディングバンクとしての役割は従来以上

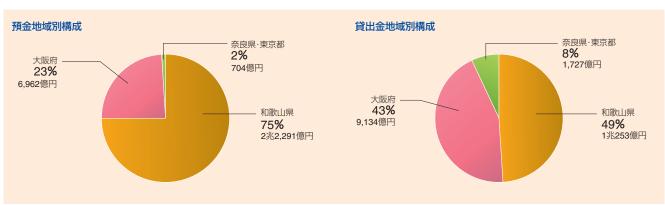


■預金・貸出金の地域別構成(平成19年3月末)

地域の皆さまの貯蓄、資産運用に関するニーズにお応えするとともに、企業や個人事業主のお客さまへの円滑な資金のご提供に努めております。

預金残高 (譲渡性預金を除く) 2兆9,956億円のうち、98%の2兆9,253億円を和歌山県、大阪府の店舗にてお預かりしております。

また、和歌山県、大阪府の店舗での貸出金残高は1兆9,387億円となっており、貸出金残高の92%を占めております。



■中小企業・個人のお客さまへの貸出の状況

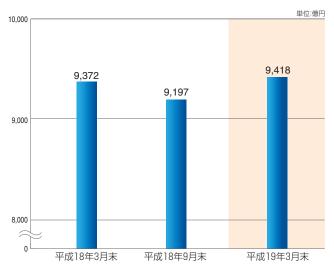
平成18年10月の合併以降、無担保・第三者保証人不要の融資商品の取扱いなどにより、中小企業等貸出金残高は増加基調に転じました。

平成19年3月末の中小企業等貸出金残高は、前期比46 億円増加し、9.418億円となりました。

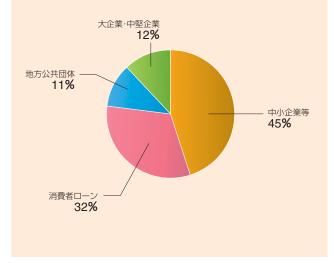
> ※平成18年3月末および平成18年9月末の残高は旧和歌山銀行との合算 ※中小企業等貸出金とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、サービス業、 小売業および飲食店は5千万円)以下の会社または常用する従業員が300人 (ただし、卸売業およびサービス業は100人、小売業および飲食店は50人) 以下の会社および個人への貸出金から消費者ローンを除いたもの

また、個人のお客さま向けのローンをあわせますと、 貸出金2兆1,114億円のうち、77%にあたる1兆6,232億円 を地元の中小企業、個人のお客さまにご利用いただいて おります。

中小企業等貸出金の残高推移



中小企業・個人のお客さまへの融資の状況(平成19年3月末)



■紀陽ハートフルプラザ

個人のお客さまとのお取引に特化した店舗「紀陽ハートフルプラザ」を平成 19年4月に和歌山市、平成19年5月に泉大津市に新設いたしました。

ご預金や投資信託、個人年金保険をはじめとする資産運用に関するご相談を 承るための専用ブースを設け、お客さまの多様なニーズにお応えするための ご提案を行ってまいります。

「紀陽ハートフルプラザーにつきましては、平成21年3月末までに既に開設 済みの2店舗を含めて、10店舗の体制とする計画であります。



■預かり資産の状況

一投資信託

平成19年5月末現在、39銘柄のファンドをご用意しております。 平成18年11月には、和歌山県および大阪府南部に関わりの 深い企業の株式と外国債券に投資する「地域株式・外債バラ ンスファンド<愛称:ベストハー干ニー> | の取扱いを開始いた しました。



個人年金保険

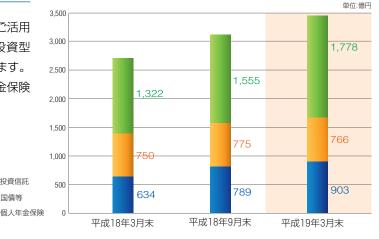
お客さまのライフプランや資産運用ニーズにあわせてご活用 いただけるよう、定額年金保険、外貨建定額年金保険、投資型 年金保険など多様な商品ラインナップをご用意しております。

平成18年度は投資型年金保険商品2本、外貨建定額年金保険 商品1本を新たに導入いたしました。

預かり資産残高の推移

投資信託

国債等



投資信託、個人年金保険に国債をあわせた預かり資産残高は、順調に増加しております。

金融商品(投資信託・個人年金保険等)のお取り引きに関するご注意

当行でお取り扱いしております金融商品(投資信託・個人年金保険等)

につきましては、株式および債券など値動きのある証券の価格変動、為替

の変動、その他の価格変動等により損失が生じるおそれがあります。

また、ご契約手数料等につきましても、商品ごとで異なっており、詳細な内容を誌面の都合上、本誌に表示できません。

したがいまして、お申し込みの際は、ご契約前にお渡しします「契約締 結前交付書面」等で必ず内容を十分にご確認下さい。

以上

商 号/株式会社紀陽銀行 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第8号 加入協会/日本証券業協会

■インターネット支店

平成19年6月、パソコンで定期預金のお預け入れができる「インターネット支店」を開設いたしました。 「インターネット支店」専用の定期預金商品をご用意し、24時間お申込を受け付けております。

■各種ローン■

お客さまのライフステージにおける様々なニーズにお応えするため、カードローン、マイカーローン、学資ローン、住宅ローンなどのローン商品をご用意しております。

住宅ローンでは、長期固定金利型商品や三大疾病保障付商品など多様な商品を取り揃えているほか、住宅購入時や他金融機関からのお借り換え時の各種金利優遇キャンペーンを実施しております。

また、専門のスタッフが住宅ローンのご相談やお申し込みを受け付ける住宅ローンセンターを12カ所設置し、うち4カ所では日曜日も営業しております。

	住宅ローンセンター	
日曜オーブン	●紀陽住宅ローンセンター(本店南館1階)	073(426)7155
日曜オーブン	●紀陽堺住宅ローンセンター(紀陽堺ビル3階)	072(222)9322
日曜オーブン	●紀陽二色の浜住宅ローンセンター	072(433)4741
	●紀陽西田辺住宅ローンセンター(手塚山クレバービル2階)	06(6694)9801
	●紀陽藤井寺住宅ローンセンター(藤井寺フコク生命ビル5階)	072(937)5601
日曜オープン	●紀陽東岸和田住宅ローンセンター(東岸和田支店2階)	072(428)0540
	●紀陽鶴見住宅ローンセンター(尾本ビル5階)	06(6934)9600
	●紀陽八尾住宅ローンセンター(イースタンビル2階)	072(924)9820
	●紀陽江坂住宅ローンセンター(太陽生命江坂ビル9階)	06(6380)9701
	●紀陽堂島住宅ローンセンター(堂島グランドビル5階)	06(6343)1251
	●紀陽狭山住宅ローンセンター(狭山支店2階)	072(368)7200
	●紀陽大和高田住宅ローンセンター(岡本ビル3階)	0745(53)3541
	日は日曜日も営業(午前10時から午後4時まで)1,7おります。	

■生体認証ICキャッシュカード

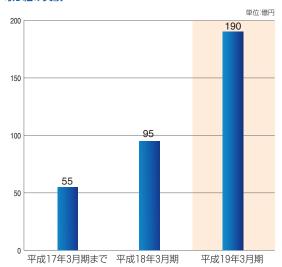
偽造・盗難キャッシュカードによる不正引き出し被害を防止するため、平成19年3月より「指静脈」認証方式による生体認証ICキャッシュカードの取扱いを開始いたしました。

また、安全性の高い本カードを広くご利用いただくため、平成19年9月28日まで新規発行(切替)手数料を無料とするキャンペーンを実施しております。

■円滑な資金のご提供

スコアリングモデルや当行の内部格付を活用し、法人のお客さまや個人事業主の方にもご利用いただきやすい「地域応援団<プラス>」、オリックス株式会社との提携による「スーパー・セーブL」など、無担保・第三者保証人不要の融資商品のラインナップを充実させました。

無担保・第三者保証人不要の融資商品への 取り組み実績





■経営相談・コンサルティング

企業のお客さまの経営課題解決やニーズにお応えする ために、様々なご提案や情報のご提供を行っております。

また、産(企業)、学(大学等)、官(公的機関)のネットワークも活用しながら、お客さまの創業、新事業展開に対する取り組みをご支援しております。

経営相談・コンサルティング活動の実績

ビジネスマッチング

(販路・仕入先ご紹介、新分野進出パートナーご紹介、コンサルタントご紹介 等)

M&A仲介

株式公開支援

事業承継対策

政府系金融機関との協調融資等

地域の皆さまとともに

■経営改善支援

融資部経営サポート室と営業店が連携し、お客さまとの十分なコミュニケーションを通じ、最適な経営改善計画の策定を支援するとともに、実施状況を検証するなかで随時アドバイスをおこなっております。

平成19年3月期は、お客さまの財務内容の改善などにより、20社の債務者区分がランクアップ(※)いたしました。

中小企業再生支援協議会やRCC (整理回収機構) などの外部機関とも連携しながら事業再生計画の実現に取り組んでいる事例や、紀陽銀行も出資する再生ファンド「くろしお企業支援ファンド」など様々な手法を活用して抜本的な再生に取り組んでいる事例もあります。

※債務者区分ランクアップ

ご融資先を財務内容などにより、正常先、要注意先、破綻懸念先、実質破綻先、破綻先の5段階に区分し、経営改善や事業再生などにより上位のランクに引き上げること



■ビジネスサポートセンター

ビジネスサポートセンターは、中小企業や個人事業主のお客さまに対する新しいスタイルの営業拠点として、専門スタッフが電話、FAXによる融資のご相談を受け付けております。平成19年4月に田辺、岸和田の2カ所に増設し、現在4カ所(増設した2カ所のほか、本店、堺)で営業を行っております。

■紀陽文化財団

平成7年に設立した(財)紀陽文化財団では、地域の皆さまに音楽や美術などに接していただく機会をご提供するため、クラシックコンサートの開催や和歌山県立近代美術館・博物館への無料招待を実施しております。

クラシックコンサートは、これまでに24回開催しておりますが、毎回会場が 満席となるなど地域の皆さまにも好評をいただいております。



■環境保全・美化活動への取り組み

紀陽フィナンシャルグループの行動憲章において、環境問題への取り組みについて以下のように定めており、地域環境の保全に向けて様々な取り組みを行っております。

地域金融グループとして、活動の拠点となる地域の環境保護活動に参画するとともに、環境保全に寄与する金融サービスを提供するなど、環境問題に積極的に取り組みます。

■ 和歌山県「企業の森」事業

平成18年より、和歌山県「企業の森」事業に参画しております。役職員が伐採後の森林へ広葉樹の植栽や下草刈り活動を行い、森林保全活動を通じ地域の環境保護に貢献することをめざしております。

また、和歌山県は、同事業を通じた広葉樹林の創出による二酸化炭素削減量を認証する制度を設けており、当行の活動により年間約5トンの二酸化炭素削減効果があるといわれております。



■ 環境美化活動への取り組み

紀陽銀行「小さな親切の会」では、平成7年の発足以来地域の清掃活動に参加するなど環境美化に取り組んでおります。

■地域行事への参加

地域社会の一員として、地域行事に積極的に参加しております。「紀州おどり」への参加や「和歌浦ベイマラソンWith JAZZ」の運営ボランティア派遣など地域の各種イベントへの参加を通じ、地域の皆さまとの交流を深めております。

■各種スポーツ行事への協賛

地域社会への貢献活動の一環として、「和歌山県綱引 選手権大会」や「少年野球大会」などに協賛しております。

■発行済株式総数

727,139,053株
266,000株
5,370,000株
24,000,000株
3,600,000株
45,000,000株

[※]第2回第一種優先株式は、平成19年5月15日に普通株式への転換が完了しています。

■株主総数

普通株式	28,965名
第一種優先株式	5名
第二種優先株式	670名
第三種優先株式	1名
第2回第一種優先株式	1名
第3回第一種優先株式	1名

■株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社

■株式事務取扱場所·取次所

〈 事 務 取 扱 場 所 〉 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部

電話0120-094-777(通話料無料)

〈取次所〉三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店

単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(1,000株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。

詳細につきましては、上記<事務取扱場所>または<取次所>までお問い合わせ下さい。



株式会社 紀陽ホールディングス

和歌山市本町1丁目35番地 http://www.kyfg.com/

株式会社 紀陽銀行

和歌山市本町1丁目35番地 http://www.kiyobank.co.jp/



